



Q. 値動きの幅が大きいファンドへの投資は、下落が続いたときに不安になるのだけど？

A. 積立投資であれば、値動きの幅が大きいファンドに投資した後、基準価額の下落が続いたとしても、その後の値動きによっては、値動きが安定的なファンドより高い収益を得る可能性もあります。

異なる値動きをするファンドA、ファンドBについて、一括投資と積立投資のケースをみてみましょう。

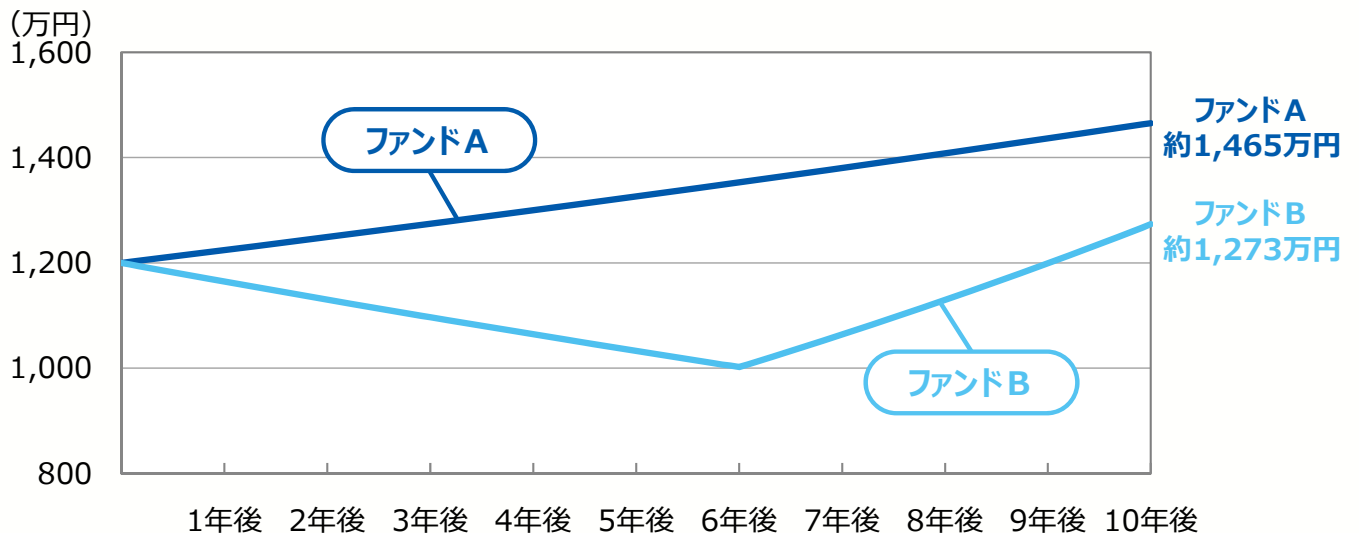
ファンドA、Bは10年間、それぞれ以下の条件で運用されたとします。

【条件】

ファンドA：年率プラス2%のリターンが10年間継続

ファンドB：年率マイナス3%のリターンが6年間継続した後、年率プラス6%のリターンが4年間継続

1,200万円を一括で投資して運用した場合

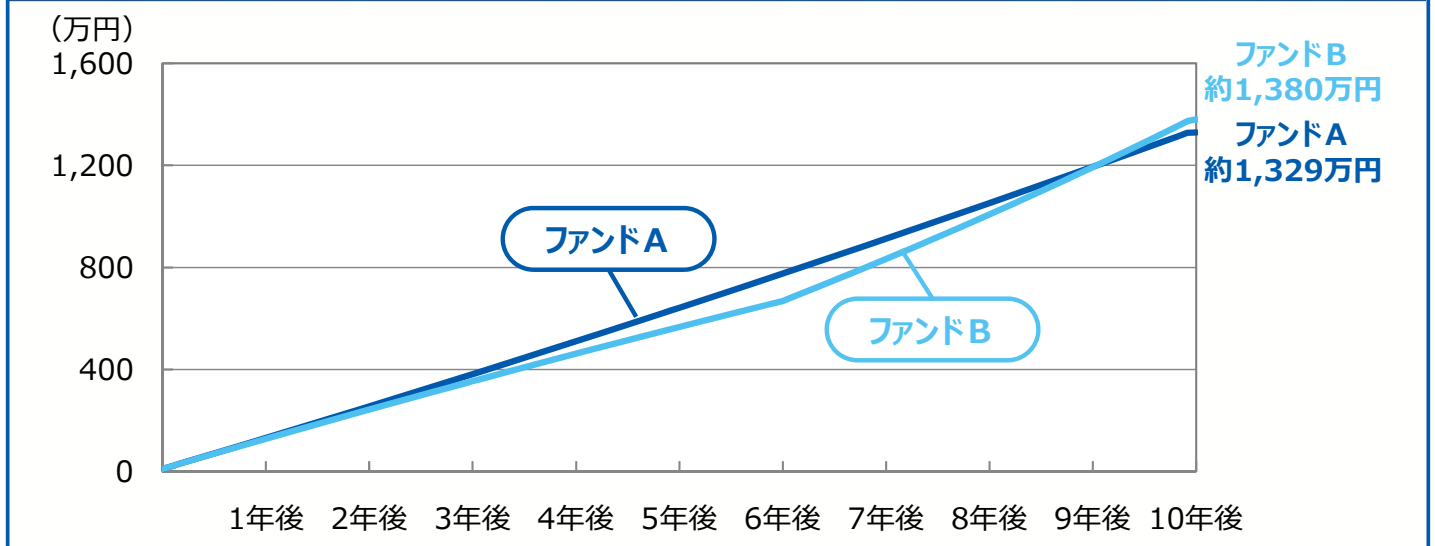


**一括投資の場合、値動きが安定的なファンドAが有利でした。
では、積立投資の場合はどうでしょうか？**

(注) 上記は一定の前提条件に基づきシミュレーションを行ったものであり、実際の投資成果ではありません。また、将来の成果を示唆あるいは保証するものでもありません。



毎月10万円ずつ10年間、総額1,200万円を投資して運用した場合



**積立投資の場合、値動きの幅の大きいファンドBの方が、
安定的なファンドAよりも高い収益を得るという結果になりました。**

- 同じ資産に対し、①同じ金額を、②異なるタイミングで、③継続的に買い続ける方法を**ドルコスト平均法**といいます。
- ドルコスト平均法のメリットは、下落局面で多くの口数を買うことができるため、**1口当たりの単価を引き下げられる点**です。
- 積立投資の場合、基準価格が下落しても**投資を続ける**ことで1口当たりの単価を引き下げておけば、価格が上昇に転じたときに高いリターンを得ることができる可能性もあります。
- 積立投資による時間分散は、値動きの幅の大きい資産に対して効果的です。
- 株式など、値動きの幅の大きい資産への投資は下落が心配と感じているお客さまも、積立投資なら不安が和らぎ、投資を継続していただけるのではないのでしょうか。

(注) 上記は一定の前提条件に基づきシミュレーションを行ったものであり、実際の投資成果ではありません。また、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。